

平成26年度 学校評価報告書

練馬区立石神井中学校
校長 田中 隆史

1、自己評価の結果

(1) 概要

学校経営計画の6つの重点目標であった「確かな学力の定着と向上」「豊かな心の育成」「行事や部活動の充実」「健康教育や食育の推進」「安心で安全な学校環境づくり」「保護者や地域との連携」について自己評価を実施した。各設問で「とてもそう思う」を8点、「まあそう思う」を6点、「あまり思わない」を4点、「まったく思わない」を2点とし、その合計を人数で割り、数値化した。「確かな学力の定着と向上」の平均数値は7.12、「豊かな心の育成」の平均数値は6.64、「行事や部活動の充実」の平均数値は7.42、「健康教育や食育の推進」の平均数値は7.15、「安心で安全な学校環境づくり」の平均数値は7.00、「保護者や地域との連携」の平均数値は6.77であった。自己評価の全体平均数値は7.02となり、「道徳教育の充実」に関する設問を除いては、どの設問とも高い評価であった。

同じ設問で実施した生徒と保護者の学校評価アンケートの全体平均数値は、教員の7.02に対し、生徒は6.82、保護者は6.18であった。これらの結果を大別すると、以下の4つに分けることができる。

- A 教員・生徒・保護者ともに評価が極めて高く、比較的ギャップが小さかった設問（平均数値が6.5以上、平均数値の差が0.7以下）
- B 教員の評価が極めて高かった設問の中で、生徒や保護者の評価が低かったために大きなギャップが生じた設問（教員の評価の平均数値が7.0以上、平均数値の差が0.8以上）
- C 教員・生徒・保護者の中で、評価が極めて低かった設問（平均数値が6.0以下）
- D 保護者の評価で「わからない」と回答した割合が多かった設問（全体の20%以上）

Aに該当する設問

該当する設問なし

Bに該当する項目

- 【設問 1】わかりやすく、工夫した授業を行っている。
- 【設問 3】落ち着いて授業に取り組める学習環境の整備に取り組んでいる。
- 【設問 4】評価計画に基づき、評価・評定を適切に行っている。
- 【設問 5】3年間を見通した進路指導・キャリア教育の充実に努めている。
- 【設問 8】いじめ、不登校、支援を要する生徒などの対応を迅速に行っている。
- 【設問 10】体育祭と文化発表会（合唱コンクール）の充実に努めている。
- 【設問 13】生徒会主催のボランティア活動を推進している。
- 【設問 14】健康に関する教育を適切に行っている。
- 【設問 16】安全教育を計画的に行っている。

Cに該当する設問

- 【設問 1】 わかりやすく、工夫した授業を行っている。
- 【設問 2】 個に応じた教科指導を充実させ、基礎学力の定着に努めている。
- 【設問 4】 評価計画に基づき、評価・評定を適切に行っている。
- 【設問 6】 道徳教育の充実を努めている。
- 【設問 7】 生徒の心を大切にされた温かみのある生活指導を行っている。
- 【設問 8】 いじめ、不登校、支援を要する生徒などの対応を迅速に行っている。
- 【設問 9】 全教員による一致した生活指導を行っている。

Dに該当する設問

- 【設問 8】 いじめ、不登校、支援を要する生徒などの対応を迅速に行っている。

ここで問題となるのは、B・Cに該当する設問である。特に、教員の評価が低かった設問は、昨年度と同じ「道徳教育の充実」であった。これは、道徳教育の内容の充実だけでなく、時間確保が十分でなかったという反省から生じた結果である。また、保護者の評価が低かった設問は、「個に応じた教科指導の充実と基礎学力の定着」と「いじめ、不登校、支援を要する生徒への迅速な対応」であった。前者は学級数の関係で物理的に少人数授業や習熟度別授業の実施が不可能であるという状況と保護者の期待の高さの表れ、後者はいじめや不登校の削減には至らなかったことが原因だと考えられる。

これらの結果を踏まえ、次年度は「確かな学力の定着と向上」に向けた「わかりやすく、工夫した授業」「個に応じた教科指導と基礎学力の定着」「評価計画に基づいた適正な評価・評定」、「豊かな心の育成」に向けた「道徳教育の充実」「いじめ、不登校、支援を要する生徒への迅速な対応」「全教員による一致した生活指導」を重要課題として取り組む必要がある。

Dに該当する設問は、情報発信不足が原因であるため、今年度に引き続き、学校だよりやホームページの定期的発行・更新と内容の充実、さらに学校公開や保護者会などを活用した積極的な情報発信に努めていく必要がある。

(2) 次年度の課題

①わかりやすく、工夫した授業

保護者の平均数値が他の設問に比べて低く、教員との平均数値に大きなギャップがあったこと。

②個に応じた教科指導の充実と基礎学力の定着

教員の平均数値が「確かな学力の定着と向上」に関する設問の中で一番低かったこと。また、保護者の平均数値が他の設問に比べて極めて低く、教員との平均数値に大きなギャップがあったこと。

③評価計画に基づいた適正な評価・評定

保護者の平均数値が他の設問に比べて低く、教員や生徒との平均数値に大きなギャップがあったこと。

④道徳教育の充実

教員の平均数値が他の設問に比べて極めて低かったこと。

⑤いじめ、不登校、支援を要する生徒への迅速な対応

生徒の平均数値が「豊かな心の育成」に関する設問の中で、一番低かったこと。また、保護者の平均数値が他の設問に比べて低く、教員との平均数値に大きなギャップがあったこと。

⑥全教員による一致した生活指導

教員の平均数値が「豊かな心の育成」に関する設問の中で低かったこと。また、保護者の平均数値が他の設問に比べて低く、教員との平均数値にギャップがあったこと。

2、学校関係者評価

(1) 総括

本校の自己評価結果が適切であるかどうか、学校評議員より4段階で評価をしていただいた。各設問で「とてもそう思う」を8点、「まあそう思う」を6点、「あまり思わない」を4点、「まったく思わない」を2点とし、その合計を人数で割り、数値化した。「確かな学力の定着と向上」の平均数値は6.88、「豊かな心の育成」の平均数値は6.58、「行事や部活動の充実」の平均数値は7.73、「健康教育や食育の推進」の平均数値は7.33、「安心で安全な学校環境づくり」の平均数値は7.33、「保護者や地域との連携」の平均数値は7.22と、全てにおいて昨年度を上回る結果であった。

(2) 課題及び改善策

- ①「わかりやすい授業」や「個に応じた教科指導」の実現に向けた校内研修を計画的に実施し、教員一人一人の授業力の向上と効果的な教材や指導法の開発に取り組む。
- ②より信頼度の高い評価・評定にするための検証作業を継続的に実施する。また、全教員で適正な評価・評定のあり方を学ぶ場を校内研修の中に位置づける。
- ③「生徒の心を大切にされた温かみのある生活指導」の推進に向け、より一層教育相談を充実させる。
- ④いじめ防止に向けた「学校いじめ対策委員会」を十分に機能させ、いじめ問題に迅速かつ組織的に対応する。
- ⑤保護者や地域と連携した安全教育を推進し、生徒の安全確保に努める。

(3) 根拠となる意見

- ①習熟度別授業や少人数授業が物理的に不可能であることが、個に応じた学力の定着を難しくしているかも知れない。
- ②「個に応じた教科指導の充実」には受け取り方の問題もある。保護者にとっては、我が子の学力向上に繋がっているかどうか指標としてあったのではないかと。むしろ、教員の評価が他と比較して若干低いのが気になる。
- ③「評価計画に基づいた適正な評価・評定」については、保護者は子どもを通しての評価なので、どうしても期待してしまうために評価が低くなってしまいかも知れない。生徒の評価を見ると、各先生が工夫して指導しているように思う。
- ④「生徒の心を大切にされた温かみのある生活指導」に関する生徒の評価が高い。これが

真実であると思う。

⑤「いじめ、不登校、支援を要する生徒への迅速な対応」の対策については、もっと検討して欲しい。

⑥災害避難マニュアルの内容は、保護者にも理解してもらっておくことが大切である。

⑦インターネットや携帯端末の使用については、今後も安全教育の重要なテーマになると思うので、引き続きお願いしたい。

⑧避難拠点の訓練にもっと多くの生徒の参加をお願いしたい。

3、学校評価結果の公表等

自己評価及び生徒・保護者による学校評価アンケートの結果は、1月の学校だよりで公表した。学校評価のまとめは、今年度中に学校ホームページに資料を掲載し、公表する予定である。

4、次年度の学校改善に向けた校長の見解

「確かな学力の定着と向上」「豊かな心の育成」「行事や部活動の充実」「健康教育や食育の推進」「安心で安全な学校環境づくり」「保護者や地域との連携」の6つの重点目標について自己評価を行った結果、「確かな学力の定着と向上」については、「わかりやすく、工夫した授業」「個に応じた教科指導と基礎学力の定着」「評価計画に基づいた適正な評価・評定」、「豊かな心の育成」については、「道德教育の充実」「いじめ、不登校、支援を要する生徒への迅速な対応」「全教員による一致した生活指導」が大きな課題として浮き彫りになった。これは、上記の設問の評価平均数値が低かったり、教員・生徒・保護者の評価に大きなギャップが見られたからである。

このような結果は、学校関係者評価においても学校評議員の方々から概ね適切であると評価された。

そこで、本校では今年度に引き続き、次の6つを重点目標に掲げ、学校をあげて生徒・保護者・地域の期待に応える学校づくりに全力を尽くす。

○生徒に学ぶ喜びと意欲をもたせ、確かな学力の定着と向上に努める。

○豊かな心もち、前向きな生き方のできる生徒を育てる。

○生徒の能力や良さを最大限に引き出す教育活動を推進する。

○心身ともに健康で生き生きと活動する生徒を育てる。

○生徒が安心して活動できる学校環境をつくる。

○保護者や地域との連携を深め、協力体制をより強化する。

特に、上記の課題については、以下のような改善を行う。

(1) わかりやすく、工夫した授業

①互いに授業力を高め合う研究授業、わかりやすい授業を実現させる教材や指導法の開発を校内研修の中に位置づけ、計画的に実施する

②理数フロンティア校や特別支援学級発表校として研究した内容を検証し、研究主題に

迫る授業を展開する。

(2) 個に応じた教科指導の充実と基礎学力の定着

- ①学力向上支援講師や学校生活支援員を活用した複数教員による指導体制を整備し、個に応じたきめ細かな指導を行う。
- ②小中一貫教育研究グループとして、連続性のある教科指導のあり方を探る中で、学びの連結を強化させ、基礎学力の定着を図る。
- ③学力向上支援講師を活用した放課後の補習・質問教室、定期考査前の質問教室、夏季学習補充教室を計画的に実施し、基礎学力の定着を図る。
- ④平成 28 年度から実施予定の数学の習熟度別授業、英語の少人数授業の指導計画を検討し、次年度の実施につなげる。

(3) 評価計画に基づいた適正な評価・評定

- ①より信頼度の高い評価・評定にするための検証作業を学期末ごとに実施する。また、適正な評価・評定のあり方について研修を深め、それらを検証作業後の評価・評定に生かす。
- ②評価・評定説明会では、説明の仕方や配付資料の工夫に努め、わかりやすく説明する。

(4) 道徳教育の充実

- ①道徳の時間を計画的な実施し、参考資料の吟味とその活用に努める。
- ②各教科の担当者が道徳の時間との関連を意識しながら、それぞれの特質に応じた教科指導を意図的・計画的に実施する。

(5) いじめ、不登校、支援を要する生徒への迅速な対応

- ①不登校対策加配教員の配置や定期的開催する教育相談委員会を有効に活用しながら、いじめ・不登校生徒の削減に努める。
- ②小中一貫教育研究グループとして、不登校や支援を要する生徒への連携した取組を協議し、それらを実践に生かすことで不登校や支援を要する生徒に寄り添った対応を行う。
- ③学校と家庭の連携推進事業や主任児童委員との定期的な連絡会を通して、学校と地域が連携して不登校生徒にかかわる体制を確立し、その削減に努める。
- ④不登校生徒を対象とした別室指導のあり方を検討しながら、「みつがしわ教室」の運営を充実させる。

(6) 全教員による一致した生活指導

- ①生活指導部を中心に生徒情報を共有し合い、指導への見通しと手立てをもった生活指導を組織的に進める。

5、根拠となる資料